

「竹富島のお土産」

2002.8.12

島嶼文化教育コース 平田真弓

1. テーマ：竹富島の観光「竹富島のお土産」

前回の教材では、観光客数、宿泊施設数、観光コースを主に観光地としての竹富島を見ている。教材の後半では、そこから生じる問題点や今後の課題を児童に考えさせる仕組みを取っていた。今回の調査ではまず、前回の教材の訂正を行うと共に、「竹富島のお土産」という視点から観光を見たいと思う。

2. テーマ設定の理由

沖縄県の人にとって、何処かに観光に行くことは、同時に旅行することを表すことが多いと思う。旅行の醍醐味は、“見る”“買う”“食べる”“泊まる”ことだと私は考えている。今回、この教材を読み込んでいくと、“見る”“泊まる”には着目しているが、“買う”という視点が見られない。お土産は、島の風土を伝える手段として最も適していると私は考えている。そのお土産に、島の特産品が活かされると、相乗効果で、島に対する観光客の理解が増すのではないかと思う。実際に、私自身もどこか旅行に行くと、その土地のお土産を購入する。そして、家族と旅の思い出を語り合うことが多い。その点から私にとってお土産とは、その地域での思い出を家族と共有する手段の1つでもある。今回は、現在の竹富島までのお土産の内容や歴史など、お土産を様々な視点から見つめ直し、そこからお土産の必要性を考えるきっかけづくりをテーマとして設定した。

3. 竹富町（竹富島）のお土産に関する産業はどうなっているか。

竹富町商工観光課が夏季調査、平成12年8月3日（木）・8月5日（土）、秋季調査、平成12年11月16日（木）・11月18日（土）・12月10日（日）から12月13日（木）に分けて、観光客を対象にアンケート調査を実施した。資料中のお土産購入費のうちわけを見ると、夏季では「なし」が約6割、「5千円未満」が約3割、「5千円から1万円未満」が約1割となっており、「1万円以上」は、少数である。また、秋期でも「なし」が約3割、「1万円以上」も約3割である。

現在、竹富島には、土産品店として6軒存在するが、このほかの場所においても購入することが可能である。お土産は島の産業に影響を与えているかのアンケートを行うと、次のような結果が得られた。

- ・ 大変役立っている 67%
- ・ やや役立っている 22%
- ・ 普通である 11%

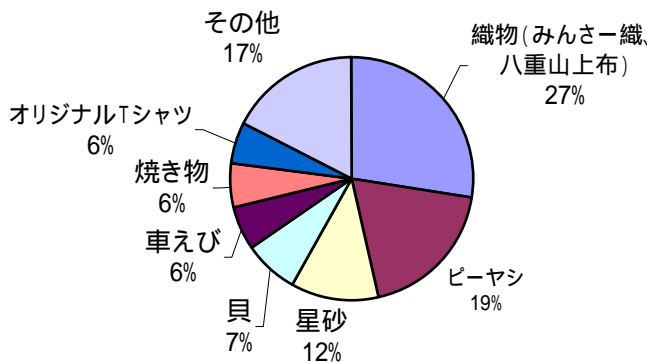
- ・ 必要を感じない0%

理由としては、観光協力費を収めている、竹富の名を広めている、島内は観光客に関する職業が収入源になっているから、車えび養殖場のおかげで若者の働く場所がある、星砂 = 竹富と認識している観光客が多い、島には、「流通」という産業が発達していないため、影響が少なく、「観光」の方が重要との声があげられた。

{出典：『竹富町入域観光統計調査 調査報告書』P9 竹富町観光商工課}

4. 竹富島のお土産、特産品は何だと思うか。(アンケート結果)

- ・ 織物(みんさー織、八重山上布) 27%
- ・ ピーヤシ 19%
- ・ 星砂 12%
- ・ 貝 7%
- ・ 焼き物、車えび、オリジナルTシャツ 6%
- ・ その他(サタクンコー、島唐辛子、サンゴ、染物等) 17%



同様の質問を観光客にも行ったところ、みんさー織、星砂という回答が多く得られた。

これらのことから、島の特産品はお土産として人々の中に定着していると考えられる。しかし一方で、島の特産品がお土産に活かされているかの問いに対して28%の方が、「思わない」と答えていた。その理由は、これらのお土産に対して原材料から、純粋に竹富島で生産されていないことを疑問視している、観光客の方が余り購入せず、PRが少ないのではないという内容だった。

5. 竹富島のお土産、特産品として最も知られているみんさー織にはどのような歴史があるのだろうか。また、いつ頃からお土産となったのだろうか。

由来

みんさー織りの「みん」は綿を、「さー」は(狭)あるいは(紗)が語源ではないかと考えられている。「五つ」と「四つ」の柄は、「いつ(五)の世(四)までも末永くお願いし

ます」という意味で有名である。また帯の両脇にあるムカデの足に似た模様（ヤツサミ）には、「足繁くおいで下さい」という通い婚時代の名残も残っている。昔の女性はすぐには嫁がず、2, 3人の子供を育ててから、婿の元へ嫁にいったそうで、毎晩、婿が通ってくる道中に誘惑されることを心配し、「足繁く通ってくる」という意味ができた。模様の両端の線は、まっすぐ清らかな気持ちを表し、いつの世までも二人を結ぼうという意味を含めて帯になった。

復興からお土産になるまで

戦争時、竹富島の住民は、戦争は負けだと思ったため、織機を薪にしてしまい、戦後、島では亀井さんのみが所持していた。1952年（昭和27年）5月ごろ、岡山県の倉敷民芸館長外村吉之助さんが、はじめて竹富島を訪れ、みんさ一織に感激していた。外村さんの訴えに呼応して、1958年（昭和33年）女性たちは最初の講習会を開き、織物の技術を習得した。これを契機に地面に座って直接織る地機という方式から、椅子に座って織る高機へ移行した。この講習会の際、おさがないのでいくらでも織物の幅を絞れると思った内盛さんはまず、みんさ一のネクタイを作ろうと思った。その後、外村さんが一行で竹富島を訪れた際、竹富島には、思い出として買って帰るものがない、みんさ一帯は素晴らしいものだから是非お土産を作ってほしいとの要請によって、ネクタイやヘアバンド、ベルトを織ることになった。1963年（昭和38年）に、婦人連合会、観光協会、八重山琉米文化会館主催の展示会に出品した頃から、カバンなどを作り始め、これまでに内盛さんは、人形用に1cm幅のみんさ一帯や、テーブルセンターなども作った。

現在のみんさ一織について

上でも述べたように本来のみんさ一織は手でしめており、おさは使っていなかったが、1989年（平成元年）八重山ミンサーとして、八重山上布と共に国の伝統工芸産業指定となった際、従来の織り方では難しいからと、おさを使用した織物もみんさ一織と呼ぶことにした。本音を言うと、おさを使用することは本当のみんさ一織ではないと考えているので嫌であると内盛さんは述べていた。現在では、竹富町織物事業組合によって、上布やみんさ一織の後継者育成を図っている。その際竹富町は、いくつもの島が点々としているため、織りで困っているとの声があってもすぐには駆けつけられなく、また組合に布を納める点においても多少の不便がある。また、組合に関しては、織り主が減ったことと組合員の兼業の方が多きことも悩みである。

最後に、伝統工芸産業指定を受けて、これまで以上にみんさ一織りが沖縄県のみでなく、全国に知れ渡るきっかけになった反面、既製品に対する評価も厳しくなることに対してどのように考えているのかを、内盛さんに尋ねると、正直、指定を受ける前と後では、どちらが良かったかはわからないが、指定に合格し、シールが3つ貼られると、問屋も買い取るために金になる。だから、合格するようにがんばっていきたくないと述べていた。そして、後継者育成事業に対して、みんさ一を守ろうと思わないと先人たちに申し訳がないと思うとも語っていた。

ミンサーのみの生産現況（竹富島）

従事者数（人）総数 （平成 12 年 3 月 31 日現在）	生産高（100 万円） （平成 11 年 4 月～平成 11 年 3 月）
31	3.5

{ 出典：『離島関係資料』P63 沖縄県企画開発部 地域・離島振興課 }

* 従業者数（平成 13 年度 3 月末現在）は竹富町全体で男 3 人、女 68 人、計 71 人（うち竹富島 29 人）。生産額は、すべての事業所が 200 万未満である。原材料の調達状況は、県産が全体の 3 分の 2、県外産が 3 分の 1 である。

6. これからどのようなお土産を作っていきたいか。

- ・ みるさー織を使用した製品 58%
- ・ 昔ながらの食材を利用したもの 12%
- ・ 健康食品 12%
- ・ 自然（草木や貝など）を活かしたもの 6%
- ・ 芭蕉布 6%
- ・ シーサーの置物 6%

みるさー織など竹富島を代表するものを使用してもっと生活の中に取り入れられるような製品を求める声が多かった。また、ピーヤシや、島唐辛子のように昔からこの地域に根ざした食材を活用したお土産や、竹富島は長寿の島なので健康に着目し、薬草を使用した飲み物、香辛料の開発なども候補に上がっていた。全体的に、島の方の意見を見ると、竹富島に誇りを持っており、「竹富島にしかないものを」という意識が強いように感じられる。

7. 今後の課題

現在、竹富島のお土産店で並べられているみるさー織の大半は石垣島から届けられたものである。そのみるさー織りも石垣島での需要が多いために、注文できないことも度々起こっている。竹富町商工会で話をうかがうと、竹富町全体的に言えることだが、島では人材が不足しており、その結果、客の需要に供給が追いつかないといった傾向が生じている。島の方に話をうかがうと、すべての人がみるさー織に対して強い思いを持っており、竹富島発祥のみるさー織をこれからも大切に残していきたいと考えている。そして、竹富島で織られたみるさー織りを竹富島のお土産として観光客にも提供したいと考えている方も存在する。今後、島のみるさー織りを守りつつ、お土産として織り上げていくには、どのように取り組んでいくかが今後の課題である。

*** 副読本に関する指摘**

1. 観光客数に関して

1) 竹富町役場の方には、昨年度の観光客入域数がまとめられているのではないかと思います。しかし、昨年はテロの影響で、9月以降、沖縄県の観光客数が激減した。竹富町もその影響を多少は受けていると考えられる。その為、場合に応じては、2年前の資料を載せることもやむを得ないと思う。(平成12年度まで観光入域数の推移を図1.に記載)

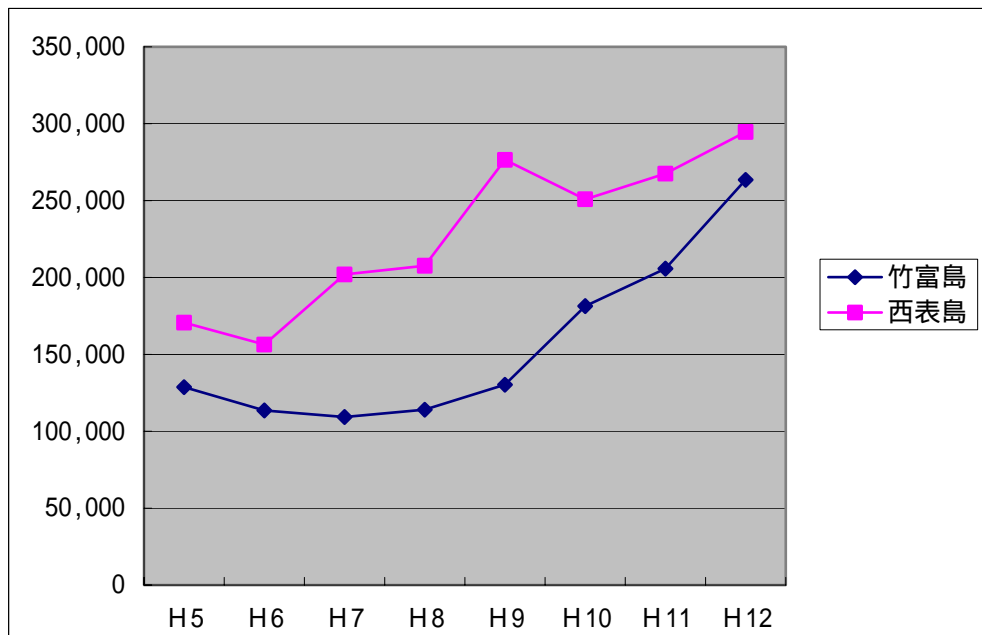
2) 観光客数に関する問題提示に関して、何故、竹富島を訪れる観光客は多いかとの記載になっていた。しかし統計を見ると、竹富島より、西表島の方が数としては大きい(図2.参照)。前回の教材作成者の意図としては、土地面積に対して竹富島の入域数が多いことをふまえての出題かとも考えられるが、児童はそのようなことに気づいているのだろうか。必要に応じて、この記述に訂正を加えていくべきではないか。

図1. 観光入域数の推移

次 島名	年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年
	竹富島		128,688	113,541	109,269	114,028	130,260	181,405	205,754
西表島	東部	104,271	91,482	132,112	138,946	177,493	198,003	215,778	257,917
	西部	66,378	64,913	69,855	68,659	98,974	52,826	51,725	36,693
	合計	170,649	156,395	201,967	207,605	276,467	250,829	267,503	294,610
小浜島		55,454	53,807	43,282	45,622	45,948	53,134	55,012	74,992
黒島		22,825	18,749	17,387	11,751	12,088	15,348	15,980	13,275
波照間島		11,848	16,394	14,877	23,572	13,927	23,463	21,080	19,418
鳩間島		284	146	141	182	182	232	384	628
新城島		1,297	1,161	1,678	1,371	1,722	516	1,112	1,780
合計		391,045	360,211	388,601	395,568	480,594	524,927	566,825	668,157

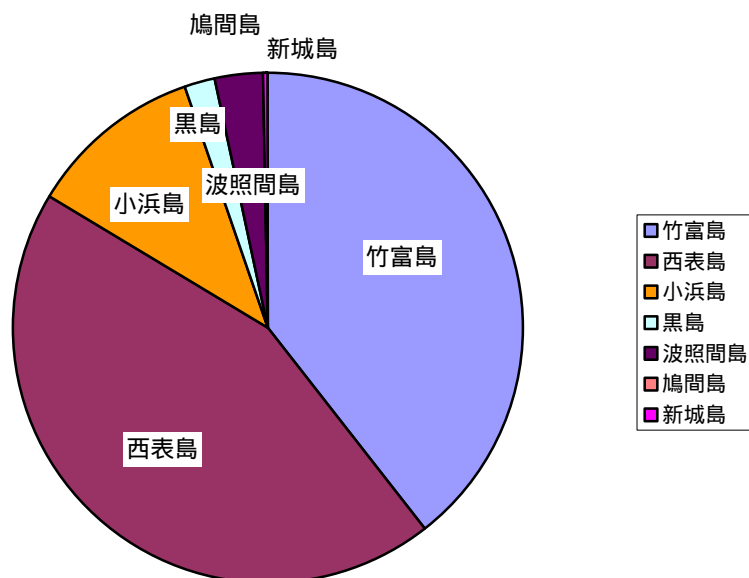
{ 出典：八重山要覧 P74 }

図 2 . 竹富島と西表島の観光入域数比較



{ 出典：八重山要覧 P74 }

図 3 . 観光入域数（竹富町）の島別構成比 - 平成 12 年 -



{ 出典：八重山要覧 P74 }

2. 宿泊数に関して

竹富島の宿泊数は現在 14 件（表 1 . 参照）であり、前回の教材より 3 件増加している。この事実は、その次のページの“何故、宿泊数が減少しているか”との問いに矛盾する。施設が減少した理由は、教材のおじいさんの話から推測すると、交通機関の進歩に伴って、日帰り観光が増加したことが原因だと考えられる。しかし、今回再び増加していることは、このような問題点が、多少解決したことの現れか、若しくは、その他に理由が存在するのか。新しく作られた施設の方から、宿泊施設をはじめた理由を今回の調査で聞き、出題文の訂正を加える必要があるのではないか。

表 1 . 竹富島宿泊施設

宿泊施設名	電話	住所
泉屋	0980-85-2250	竹富町竹富 377
内盛荘	0980-85-2255	竹富町竹富 490
大浜荘	0980-85-2226	竹富町竹富 501
小浜荘	0980-85-2131	竹富町竹富 316
仲盛荘	0980-85-2307	竹富町竹富 525
新田荘	0980-85-2201	竹富町竹富 347
のはら荘	0980-85-2252	竹富町竹富 280
マキ荘	0980-85-2258	竹富町竹富 470
松竹荘	0980-85-2257	竹富町竹富 484-1
丸八民宿	0980-85-2260	竹富町竹富 523
樹庭夢	0980-85-2402	
高那旅館	0980-85-2151	竹富町竹富 499
ユースホステル高那	0980-85-2151	竹富町竹富 499
ゲストハウス さぶな家	0980-85-2088	

今年 4 月にオープン

{ 出典 : 竹富町役場 Home Page <http://www.town.taketomi.okinawa.jp/view/gesthouse1.html> }

* 副読本の訂正（個人的な見解をまとめている）

1 ページ目：年間の観光客数約 39 万人を訂正（インターネットで入域数を調査する）

2 ページ目：インターネットで最新の数を入手する。前でも述べたように設問を訂正する。

3 ページ目：現在の写真と取り替えたい。（インターネットから無断転写することは可能か？）

4,5 ページ目：副読本に関する指摘の 2 . に記載

7 ページ目：インターネットで最新の数を入手する。

9 ページ目：日帰り観光の増加を理解するため、観光入域数と宿泊者数を提示してはどうか？

10 ページ目：現在の問題点を、聞き取りなどをして探る。

副読本のデータ、内容の改訂

平成 13 年度観光入域数

竹富島	西表東部	西表西部	小浜島	黒島	波照間	鳩間島	新城島	嘉弥真島	合計
246,265	238,505	33,347	60,217	12,280	10,116	140	680	4,692	606,242

平成 13 年度観光入域数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
24,295	27,123	31,915	27,594	15,922	12,96	19,861	19,736	14,749	15,573	21,536	14,996

* 去年はテロが起こったが、沖縄本島とは異なり、竹富町はその影響をあまり受けていなかった。その理由は、竹富町の中心となっている石垣市に米軍基地が本島に比べてあまりないことが関わっている。

民宿のおばさんの話

前回同様、日帰り観光はまだあり、駆け足的な観光になっている。また、高齢者の団体は、7島巡りツアーなどで訪れると午前中は元気だが、夕方くらいでは疲労している方が多い。それは、1日3、4島まわることと関係しているのではないかと。また旅行社の説明の仕方によって、観光者は島に泊まる施設があると知らなく、石垣を拠点にする方法しか教わらないこともある。

客層は、夏は個人客、中でも家族連れが多い。冬は団体客が多く、高齢者が防寒のために訪れている。また、療養のために島を訪れる客も多く、夏では皮膚病、冬では、ぜん息や花粉症のため長期滞在する方が、早くて12月ごろから訪れている。

台風時の対応としては、多めに食料を仕入れ、延長した宿泊費は後払いでも可能という手段をとっている。

最近の問題としては、格安チケットの販売されたため、チケットを購入する以前に宿の予約を行い、後で相次いでキャンセルするということがあった。そのため、今では事前にチケットがきちんと手配されているのかの確認を行うようにしている。